（別紙様式４）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道芸術デザイン専門学校	昭和51年4月1日	根上　和也	〒　001-0024 （住所）　北海道札幌市北区北24条西8丁目1－12 （電話）　011-756-0777
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人美専学園	昭和62年12月4日	増田　涼平	〒　001-0024 （住所）　北海道札幌市北区北24条西8丁目1－12 （電話）　011-756-0777

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化教養専門課程	マルチメディアデザイン科 （Web・動画クリエイター専攻）	平成 7(1995)年度	－	平成26(2014)年度

学科の目的	マルチメディアデザイン学科の各分野（Web・動画）に関するプロ養成に必要な「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的創造的に研修し実務的な職業教育を施す。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	Webクリエイター能力認定試験／Webデザイナー検定／CGクリエイター検定、 Illustratorクリエイター能力認定試験／Photoshopクリエイター能力認定試験

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,400 単位時間	30 単位時間	2,370 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
80 人の内数	15 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	:	24	人
■就職希望者数 (D)	:	20	人
■就職者数 (E)	:	20	人
■地元就職者数 (F)		20	人
■就職率 (E/D)		100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		100	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		83	%
■進学者数		0	人

■その他

進路変更、家業継承

（令和　　5 年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

Web制作、広告制作、映像制作等

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://bisen-g.ac.jp/course/multimedia/web/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	2,400 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	300 単位時間
うち必修授業時数	2,400 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	300 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	－ 単位
うち必修授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		4 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	4 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、解説科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
佐野　公康	株式会社デービス　再票取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
佐藤　正人	北海道イラストレーターズクラブα　名誉会長	同上	①
大内　利章	株式会社自然農園　代表取締役社長	同上	③
堀川　敦史	株式会社インフィニットループ	同上	③
薄木　健友	株式会社花佳	同上	①
伊藤　千織	一般社団法人北海道デザイン協議会　会長	同上	①
鈴木　理	株式会社鈴木理アトリエ依級建築士事務所　代表取締役	同上	③
赤坂　真一郎	株式会社アカサカシンイチロウアトリエ　代表取締役	同上	③
根上　和也	北海道芸術デザイン専門学校　校長（委員長）	同上	—
高橋　美絵	同　教務部長・マルチメディアデザイン学科長	同上	—
飯塚　哉子	同　学務部長・建築デザイン学科長	同上	—
高畑　文一	同　産業デザイン学科長	同上	—
桂　充子	同　環境デザイン学科長	同上	—
稲葉　未紗	就職課主任	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回　（8月、2月）

（開催日時（実績））

第1回　令和5年8月29日　16:00～18:00

第2回　令和6年1月26日　16:00～18:00

#REF!

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。

・生成AIについて外部委員から業界における実務での利活用状況について教示して頂き、学生の利用実態についてアンケート調査を実施予定。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書（シラバス）を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
応用技術演習Ⅰ Photoグラフィックス基礎	Photoshopソフトの基本操作を学習する コンセプトに基づいたビジュアル表現を学習する	株式会社AMVER
基礎技術演習Ⅳ Webコーディング基礎Ⅰ	HTMLの構造・記述ルールを基本から身につけ、CSS(スタイルシート)の役割と使い方を理解し、HTMLとセットでコーディングすることでWebサイトデータを作り上げる。	クルーラー
応用技術演習Ⅴ UIデザインⅠ	UIデザインの理解と活用 ユーザビリティの理解と活用	株式会社ステージハンド
表現技法演習Ⅲ 映像演習	実際の広告映像業界についての知識や仕事の流れ、実際の企画のやり方、実務に適した編集ソフトの使用方法を学ぶ	株式会社リアクター
表現技術演習Ⅰ 撮影基礎	一眼レフカメラの基本操作と撮影を学び、写真をヴィジュアルとする場合の画面構成や人物・静物の構成や表情などの重要性を学びより実践的な表現力を習得する。	VOLANTI

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校教職員研修規程に基づき、研修は教職員が現在就いている職に係る職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。授業及び学生に対する指導力向上のため、学外で催される教員研修会等の受講機会を確保する。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　Adobe FireflyとAdobe Expressの生成AI機能について　　連携企業等：加賀ソルネット㈱
期間：　2024年4月17日　　対象：デザイン関係者
内容　Adobe FireflyとAdobe Expressの生成AI機能を授業で活用する方法

研修名：　生成AI指導のためのAdobe Fireflyワークショップ　　連携企業等：デジタルハリウッド大学
期間：　令和6年5月22日　　対象：デザイン関係者
内容　大学・専門学校での生成AI指導のためのAdobe Fireflyの活用実践

研修名：　生成AI・マルチモーダルAIと大学の社会的機能　　連携企業等：New Education Expo実行委員会
期間：　令和6年6月6日　　対象：高等教育関係者
内容　生成系AIの教育・研究での活用法

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　多層化する専門学校生を最新データで読み解く　　連携企業等：株式会社 進研アド　専門学校事業部
期間：　2024年6月25日　　対象：教育関係者
内容　中退防止に向けた入学前からの学力向上への取り組み

研修名：　文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会　　連携企業等：公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会
期間：　令和6年7月22日　　対象：教育関係者
内容　大学における障害学生支援、合理的配慮について

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　著作権セミナー　　連携企業等：文化庁
期間：　令和6年8月9日　　対象：著作権
内容　生成AIと著作権に関する考え方と実務対応

研修名：　モーションデザイナー「いっしん」特別講義　　連携企業等：田中一臣氏
期間：　令和6年8月26日　　対象：学生・教員
内容　モーショングラフィックス、ループアニメーションの実制作について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　第66回北海道私立専修学校各種学校教育研修大会　　連携企業等：公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会
期間：　令和6年9月2日～3日　　対象：専修学校教職員
内容　専修学校を巡る最近の動向・現状と課題

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像など学科の特性が明確になっているか。 各学科の教育目標・育成人材像は業界のニーズに向けて方向づけられているか。
（2）学校運営	目標等に沿った学科運営方針が明確になっているか。 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。
（3）教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が示されているか。 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 資格取得の指導体制はカリキュラムの中で体系的に位置付けられているか。 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる指導体制を確保しているか。
（4）学修成果	就職率の向上が図られているか。 退学率の低減が図られているか。
（5）学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。
（6）教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。 防災に対する体制は整備されているか。
（7）学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行われているか。 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。
（8）財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 財務について会計監査が適正に行われているか。
（9）法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。
（10）社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。
（11）国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
4名中3名の委員を入替え、新たな視点・それぞれの立ち位置から、本校が行った学校評価（自己評価）結果および今後の改善に向けての方策等について意見を頂いた。今後も、歴史と伝統のある道内有数の専門学校として、不易と流行を踏まえながら、時代や業界が求める人材の育成のため、教育課程や学生指導について改善を図り、また職業実践専門課程としての責務を果たすべく、連携する企業等との情報共有の充実や教育資源の積極的な活用に努めていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
國松　明日香	星槎国際大学	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	企業関係者
松田　香織	有限会社I.B.DESIGN	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	企業関係者
篠宮　利恵子	デザイナー	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	地域有識者
櫻井　俊二	有限会社I.B.DESIGN	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	卒業生・企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL:　https://bisen-g.ac.jp
公表時期:　45457

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
学校の状況（課題や教育活動の取組）を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策
（2）各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路
（3）教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
（4）キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習等の取組状況
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
（6）学生の生活支援	学生支援の取組状況
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
（8）学校の財務	事業報告書、収支計算書
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
（10）国際連携の状況	留学生の受入れ・派遣状況
（11）その他	学則

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL:　https://bisen-g.ac.jp/publicdata/
公表時期:　令和6年6月20日

授業科目等の概要

	文化教養分野専門課程　マルチメディアデザイン学科（Web・動画クリエイター専攻）令和６年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			デザイン基礎Ⅰ 一般教養	デザインの基礎となる基本的な概念を学び、社会人として必要なビジネスシーンでの一般常識を知る	1前	30	1		○		○		○		
2	○			デザイン基礎Ⅱ コンセプトメイキング	デザインを学ぶ上で重要な、『誰に何を伝える作品なのか』という、コンセプトの研究を行い基礎力を向上させる	1前	30	1		○		○		○		
3	○			デザイン基礎Ⅲ デッサン基礎	デッサンの基本的理論と技法を理解する確かなデッサン力を身につけ、制作の技術的根拠とする	1前	60	2		○		○			○	
4	○			デザイン基礎Ⅳ ベーシックデザイン	鉛筆や定規など、デザイン道具の正しい使い方の学習平面構成の演習を通じ情報やメッセージを伝達する基礎的手段を身につける	1前	60	2		○		○			○	
5	○			デザイン基礎Ⅴ デザイン概論Ⅰ	デザインの様々な表現方法を学習し、デザインの基本的な知識と技術を習得する	1前	60	2		○		○			○	
6	○			磯技術演習Ⅱ 撮影基礎	一眼レフカメラの基本操作と撮影を学び、写真をヴィジュアルとする場合の画面構成や人物・静物の構成や表情などの重要性を学びより実践的な表現力を習得する	1前	60	2		○		○			○	○
7	○			基礎技術演習Ⅱ Illustrator基礎	Illustratorソフトの基本操作を学習するコンセプトに基づいたビジュアル表現を学習する	1前	60	2		○		○		○		
8	○			基礎技術演習Ⅲ 映像制作基礎	AdobeAfterEffectsの基本動作を学ぶ。汎用性の高いエフェクトを中心にエフェクトの扱い方を知る。	1前	60	2		○		○		○		
9	○			基礎技術演習Ⅳ Webコーディング基礎Ⅰ	テーマに沿ったWebサイトを自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する	1前	60	2		○		○			○	○
10	○			基礎技術演習Ⅴ Webコーディング基礎Ⅱ	テーマに沿ったWebサイトを自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する	1前	60	2		○		○			○	
11	○			応用技術演習Ⅰ Photoグラフィックス基礎	「伝える」とは何かを考え、そのためにPhotoshopで出来ることを学ぶ。資格取得に向けた補足	1後	30	1		○		○			○	○
12	○			応用技術演習Ⅱ Illustrator応用Ⅰ	紙面デザインの基本的な制作過程を学習するコンセプトに基づいたビジュアル表現を学習する	1後	30	1		○		○		○		
13	○			応用技術演習Ⅲ Illustrator応用Ⅱ	紙面デザインの基本的な制作過程を学習するコンセプトに基づいたビジュアル表現を学習する	1後	30	1		○		○		○		
14	○			応用技術演習Ⅳ CG演習	モデリングソフトBlenderを使用した3DCG制作の基本技術を習得	1後	30	1		○		○			○	
15	○			応用技術演習Ⅴ UIデザインⅠ	UIデザインの理解と活用について知るユーザビリティとは何かを学ぶ	1後	30	1		○		○			○	○
16	○			応用技術演習Ⅵ UIデザインⅡ	UIデザインの理解と活用について知るユーザビリティとは何かを学ぶ	1後	30	1		○		○			○	
17	○			応用技術演習Ⅶ Webコーディング応用Ⅰ	テーマに沿ったWebサイトを生徒自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する	1後	30	1		○		○			○	
18	○			応用技術演習Ⅷ Webコーディング応用Ⅱ	テーマに沿ったWebサイトを生徒自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する	1後	60	2		○		○			○	
19	○			応用技術演習Ⅸ 映像制作応用	AdobeAftereffectsのより広い映像分野での活用について学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
20	○			応用技術演習Ⅹ コンセプトメイキングⅡ	サイトと動画の違いを知りフレームワークによるアプローチを学習	1後	60	2		○		○		○		
21	○			表現技法演習Ⅰ デザイン演習Ⅰ	Webデザイナー検定取得に向けた検定対策Web業界で働く上で必要な知識を体系的に学習する	2前	60	2		○			○	○		

22	○			表現技法演習Ⅱ デザイン演習Ⅱ	Webデザイナー検定取得に向けた検定対策Web業界で働く上で必要な知識を体系的に学習する	2 前	60	2		○			○	○		
23	○			表現技法演習Ⅲ 映像演習	実際の広告映像業界についての知識や仕事の流れ、実際の企画のやり方、実務に適した編集ソフトの使用方法を学ぶ	2 前	60	2		○			○		○	○
24	○			表現技法演習Ⅳ レイアウト技法	映像制作・Web制作に活用できるレイアウト技術を学ぶ	2 前	30	1		○			○		○	
25	○			専門技術演習Ⅰ Webデザイン演習Ⅰ	ビジネスユースに対応できるWeb制作の習得レスポンシブとユーザビリティの理解CGIの理解	2 前	60	2		○		○			○	
26	○			専門技術演習Ⅱ Webデザイン演習Ⅱ	ビジネスユースに対応できるWeb制作の習得レスポンシブとユーザビリティの理解CGIの理解	2 前	60	2		○		○			○	
27		○		専門技術演習Ⅲ Webインタラクティブ Ⅰ	インタラクティブコンテンツ制作の基本を学び、幅広いWEBサイトの表現方法に触れる	2 前	60	2		○		○		○		
28		○		専門技術演習Ⅳ Webインタラクティブ Ⅱ	javascriptによるWEBコンテンツ制作を行い幅広いWEBサイトの表現方法に触れる	2 前	60	2		○		○		○		
29		○		専門技術演習Ⅲ 映像編集Ⅰ	ストーリーテリングを基本とした映像知識について学ぶ。撮影・編集の基本的な技術を身につける。	2 前	60	2		○		○		○		
30		○		専門技術演習Ⅳ 映像編集Ⅱ	ストーリーテリングを基本とした映像知識について学ぶ。撮影・編集の基本的な技術を身につける。	2 前	60	2		○		○		○		
31	○			専門技術演習Ⅴ Photoグラフィックス演習	Adobe AfterEffectsの高度な操作について学び映像演出および表現力を身につける	2 前	60	2		○		○			○	
32	○			専門技術演習Ⅵ CMS演習	CMS(コンテンツ管理システム)を活用することWebサイトを総合的・動的に構築することが可能となる。そのCMSとして現在幅広く利用されている「Wordpress」を基に様々な技術を学び、自らサイト構築・運用できるように能力を身につける。	2 前	60	2		○		○			○	
33	○			キャリアプランニング	自身と企業について深く理解し、内定取得を目指す。	2 後	150	5		○		○		○		
34	○			進級制作	一年間の学業で身に付けた専門知識と技術を集大成した作品を制作する。	1 後	180	6		○		○		○	○	
35	○			卒業制作	二年間の学習で身につけた専門知識と技術の集大成となる作品を制作する。	2 後	450	15		○		○		○	○	
36	○			英語	義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。	1 前	30	1	○			○			○	
37	○			前期課題制作Ⅰ	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行う。	1 前	30	1		○		○		○		
38	○			前期課題制作Ⅱ	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行う。	2 前	30	1		○		○		○		
39	○			後期課題制作	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行う。	1 後	30	1		○		○		○		
合計					39　科目				2400　単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	必修科目については時間割に準じ、選択科目についてはガイダンス時に配布される資料やシラバスを確認し、担任へ申告後履修する	１学期の授業期間	18 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。